

④大正時代の豪華絢爛の店蔵、足袋蔵



大正時代の足袋産業は、のれん分けして独立していく、小規模分業経営の道です。織布業、染色業、ネル張業、底張業、印刷業、箱屋、糸商、ミシン屋、増地業などまち全体が「足袋づくり一色」に染まっていきました。そして、大正12年関東大震災による東京の足袋が衰退すると、反対に行田の足袋は一挙に飛躍し日本一の生産量を誇る町になりました。足袋産業全盛期の栄華を象徴する店舗や足袋蔵がこの時期に数多く建設されています。大正期のモダンデザイン全盛期です。

大正期のモダンデザイン全盛期を彩る豪華絢爛の足袋蔵群。大正5年の大型の土蔵。「足袋蔵ギャラリー"門"」と「クチキ事務所」大正5年の足袋蔵(3階建て土蔵)時代による足袋蔵の解できる。店蔵、主屋、足袋蔵3棟が並ぶ蔵並び短冊型。スクール工場」大正6年(1917)の木造洋風住宅・大正7年(旧「時田蔵」大正6年の足袋蔵。「田代蔵」大正時代建設の住居(足袋蔵)。大正時代の正15年の住



「保泉蔵」建築設計変遷が理「イサミ事務所」と土蔵

「長井写真館」大正11年の木造洋館《「フチイ写真館」店舗兼住宅。「旧忍町信用金庫」大正12年。「大澤蔵」大宅・土蔵(レンガ蔵)《大正期のモダンデザイン》